

ば、一位が日本人ではな
かったことを苦々しく思
う人もあることだろう。
それとも何も感じないか、
である。

国際化といつてしまえ
ば耳ざわりはいいが、日
本語もロクにわからない
グリーン氏に素直に賞賛の
拍手を送りたい気持ちと

み、堂々たるナイスバデ
イのメガワティ女史であ
る。当該記事は、200
1年に女史が大統領に就
任したもののKKK撲滅
で効果を挙げていないと
批判され、次回の大統領
選挙は対メガワティが続々
出馬する可能性がある、
との内容であった。ちな

2005年も
重大な課題をはらんで...



みにKKKとは、
汚職や談合、縁故
主義を表すインド
ネシア語だそうだ。
いやはや日本も同
様、汚職も談合も
縁故主義もはや
文化のように根づ
き、そして認知さ
れつつある悪しき
慣習である。

ともに、おいおい、これ
でホントにいいのかいと
複雑な気分にとさらされた
というのが私の正直な感
想であった。

一方、同じ日経新聞に、
インドネシアの大統領選
に関する記事があった。

インドネシア大統領と
いえばテレビでもおなじ

しかし、日本の
名経営者として名前があ
がったベスト100は98
%が男であった。つまり
女性社長は100名中2
名しかおらず、しかも90
位前後に位置していたほ
どの目だたぬ存在。とこ
ろが、インドネシアでは
現職の大統領が女性であ
るだけでなく、対立候補